

令和4年度 大阪府立高槻支援学校 第1回 学校運営協議会記録

令和4年(2022)年5月30日(月)10:00~12:00

於:本校図書室

出席

<委員>閑喜美史(会長)、内本繁(副会長)、林田理恵子、山田義昭、福井勇、矢野雅哉

<学校>彌永校長

<事務局>吉田事務長、田路教頭、加藤教頭、掛田首席、田中裕首席、東郷首席、山脇部主事、河合部主事、丸尾部主事

傍聴者 なし

- 1 校長あいさつ
- 2 運営協議会委員及び事務局の紹介
- 3 運営協議会会長及び副会長選出
- 4 事務局からの報告事項
 - ① 学校運営協議会実施要項について
 - ② 今年度の学校運営協議会の予定について
 - ③ 保護者からの意見書について
 - ④ 令和4年度学校経営計画について
 - ⑤ 令和4年度の首席等のおもな役割について
- 3 質疑、協議
- 4 校長あいさつ

*上記のとおり、報告等を行い、各委員から次のような意見等をいただいた。

(() 内は、質問等への学校からの回答)

- ・保護者からの意見書について
(提出なし)
- ・大阪府立の支援学校で給食費の無償化を目指す(R4年度)という報道があった。コロナ禍により収入が不安定になったり物価が上がったりしているため、家庭への負担減につながればよいと考える。今後の動きについて教えていただきたい。
(協議が進むかもしれないとは聞いているが、詳細な情報は学校には入ってきていない。)
- ・教育と福祉の連携について、放課後等デイサービスを含め、様々なことについて整備が進んでいる。その状況の中では支援学校の負担が大きくなってきていると聞いている。コロナ禍で人間関係が希薄になりつつあるので、本校が地域と密接な関わりの機会を増やそうとしていることはとてもよいことである。負担はあるかもしれないが、このまま尽力いただきたい。
- ・この2年の間、他校の生徒たちと関わる機会が減っている。これからは今まであった取組を元の形にそのまま戻すことを求めるのではなく、コロナ禍で得た知見や工夫をいかした取組をすすめることにより、地域とのつ

なかりを継続していただきたい。

- ・4月2日は世界自閉症啓発デーである。高槻市では、パネル展示やブルーライトアップを行っている。地域情報としてリーフレットを作成し、啓発しているので配付等に関してご協力いただきたい。
- ・支援学校の教室不足が深刻化しているといった報道があった。社会での支援教育への認知の高まり、保護者や子どもが進学先として支援学校を選ぶようになったと感じている。本校が保護者のニーズにこたえられていることは評価したいが、教室不足という課題も悩ましいことである。本校では対応を進めているとのこと、ひきつづき取り組んでいただきたい。
- ・児童生徒が増えたことによって通学バスの台数も増えているのか。
(数年前に1台増車している。大型のバス車両が製造されなくなったこともあり、過密状況が増した。)
- ・本校の近隣で工事などが行われていると地域自治会へ説明がある時は、支援学校の通学バスが運行しているので気をつけるように業者に伝えている。地域住民としても支援学校に協力、支援していこうと考えている。地域への作品展示などの需要があれば、協力できるので相談してほしい。
- ・キャリア教育の推進に関して、校長は以前「多様性」をキーワードに、就労率だけにとらわれないことが大切との認識を示しておられた。卒業生にすれば定着することも重要であるし、就労という進路でなくても社会にでて、参加から社会参画へと段階をすすむことも、卒業後には重要になってくる。ひきつづき取組を進めていただきたい。
- ・小学部から高等部卒業後にわたり、どのように生きたいのか、自分自身の生き方を実感していくことができる人材の育成がキャリア教育であると考え。自分の将来をどのように考えていくのか、さきほどの「多様性」をキーワードに取組を進めていただきたい。
- ・コロナ禍による制限をうけたなかでの教育活動の継続は大変だと考えるが、本協議会において、本校の計画や取組に関する報告をきくと、児童生徒に対してきめ細やかに対応、指導していると思う。また、保護者への対応も丁寧さを感じる。ひきつづき、進めていただきたい。
- ・児童生徒の希望や保護者の願いをかなえる「教育の充実」と教職員の「働き方改革」の両立をめざしておられることを評価するとともに、その手立てとしての役割の「見える化」に取り組んでおられることなどをお聞きし、ひきつづき取組を進めていただきたいと思いました。

今後の予定

第2回 令和4年(2022)10月17日(月)10:00～ 本校図書室にて

第3回 令和5年(2023)1月23日(月)10:00～